

平成29年度 学力向上アクションプラン

区 名	東淀川
学 校 名	西淡路小学校
学校長名	堀尾 浩行

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西淡路小学校では、第6学年 74名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数共に全国平均を下回っている。その中で、算数B・国語Bでは大阪市平均と同じくらいになっており、若干ではあるが昨年度よりも相対的によくなっている。また、無回答率がどの問題でも全国平均を下回っており、最後まで問題に向かう姿勢はこれまで通り見られる。しかし、国語Aで、無回答率が低く回答を書いているが、正答率が他の問題以上に対全国比で低くなっている。

質問紙調査の中で、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください」について肯定的に回答した割合が、全国平均より4ポイント程多くなっている。また、自己肯定感も昨年度から高い状況を維持している。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕本校の課題である漢字の読み書きについては、読みは全国平均に迫っているが、書く方はかなり下回っている。本校独自の漢字検定の取組を今後も続けていきたい。学習の領域ごとに見てみると、国語ではAでもBでも「話すこと・聞くこと」での正答率がかなり低くなっている。ただ、B問題では他の「書くこと」「読むこと」でのがんばりが見られた。学び合いの授業を進める上でも「話す・聞く力」を伸ばしていく必要がある。質問紙調査で「授業の中で友達と話し合う活動をよく行った」の「当てはまる」の回答が全国以上になっているので、授業改革の方向性としては校歌が出ていると考えている。

〔算数〕図形の領域で、A問題では正答率が全国平均を上回っているが、B問題ではかなり低くなっている。基礎基本はある程度理解できているが、理由を記述するなどの場面での言語力の育成が課題と考えている。また、算数のA問題で、全国では右肩上がりの分布になっているが、本校では、中間層の児童が多くなっている。その層に力をつけていくことが必要である。

質問紙調査より

○「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」「家で、学校の授業の復讐をしていますか」について肯定的に回答した割合が全国平均、大阪市平均より低く課題である。「している」児童は昨年度より増えているが、「どちらかといえば」まで入れると昨年度より減少しており、2極化しているとも考えられる。自主学習習慣確立の取組をさらに進めていく必要がある。

○早寝早起き朝ごはんの生活習慣の基本については、全体的に課題が見られる。特に寝る時刻が一定していない児童が多く、朝起きる時刻のばらつきに影響している。

○テレビ・ゲーム・スマホ等に関わる時間の長さも突出している。学校で学期に1回、生活学習習慣点検週間を設け、中学校のテスト期間と合わせて指導・啓発を進めており、今後も続けていく。

今後の取組

○ICT機器を活用した授業づくりを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現すべく、アクティブ・ラーニングの手法も取り入れて授業改革を進めてきた。少人数指導などを生かして、さらに先生が説明をする（話をする）時間の少ない、児童が考え発言し話し合う時間をしっかり取った授業づくりを進めていく。

○今年度復活させた朝の読書の時間をしっかり活用し、文章を読む機会を通じて漢字の読み書きの定着を図っていききたい。

○児童質問紙において、「国語が好き」「国語・算数の勉強が大切だと思う」という質問への肯定的な回答が2年続けて減少している。「算数が好き」は昨年度より若干増えたが、全国や大阪市と比べると大変低くなっている。学習が好き・楽しいと思える授業を作っていくことが重要だと考えている。